

社会的交流とチームパフォーマンス 「雑談」がチームを強くする科学的メカニズム

Closing the Psychological Distance: Effect of Social Interaction on Team Performance

服部 圭介（青山学院大学 経営学部）・山田 麻以（日本大学 経済学部）

AGU
Re:Search
Forum
2025

論文 DL



報告者のサイト

Take Away: まとめ

■ 社会的交流がチームパフォーマンスを高める「メカニズム」の科学的説明

社会的交流は、仲間の「思いやり」の正しい理解を促し、メンバー間の思いやりの温度差を縮めることで、努力が補完的なタスクのチームパフォーマンスを高める。

- 社会的交流が効果的: 損失回避傾向が高い慎重なチーム・同性チーム

■ 実務への示唆

① 交流機会の構造化

戦略的投資としてのランチ会や社内イベント

協力が必要なプロジェクトにおける初期の交流

② 人事評価システム

向社会的人材は、他の向社会性を高める貴重な存在

向社会性・感情認知能力の人事における評価

③ 効率的な社会的交流

損失回避傾向が発しやすいプロジェクトに特に有効

心理的安全な環境づくりでシナジーを活かす

1 Research Background: 背景

- Nike, Airbnb, LEGOなどは従業員の「社会的交流」を重視
 - 社内イベント, ランチ会, オフィスBARの設置など
- GoogleやPixarは、「偶然の出会い」をオフィスに設計
- 社会的交流の効果:
 - メンバーに対する互いの「思いやり」の気持ちが均質化

→ 社会的交流が「どのように」チームパフォーマンス向上に役立つのかは未解明



2 Research Question: 目的

ゲーム理論を援用した数理モデルと、大学生を対象としたラボ実験で

- ① チームでの社会的交流が、チームパフォーマンスに及ぼす影響を検証
- ② 特に、社会的交流がメンバー間の「思いやり」ギャップを小さくする効果に着目
- ③ 社会的交流が、「なぜ」「どのように」「どのようなチームの」パフォーマンスを向上しうるのであるかを解明

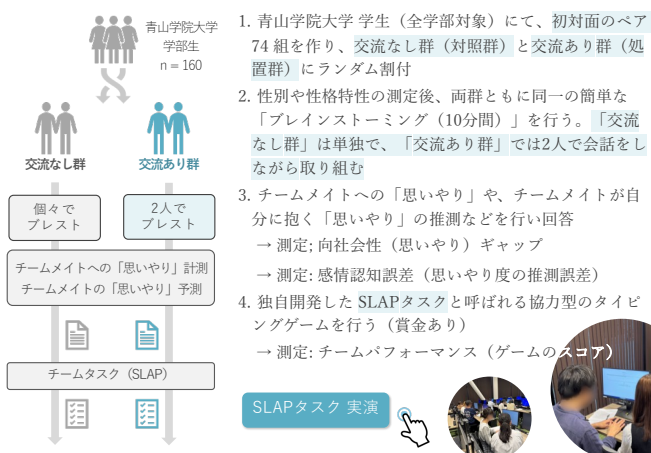
3 Theory & Prediction: 理論と予測

- ゲーム理論を援用した「チーム生産」の数理モデルを構築
- 2人のチームメンバーが、努力が補完的なチームタスクに取り組むようなモデル
- チームメンバーは、チームメイトに対する向社会性（思いやり）を持ち、それが「社会的交流」の程度によって近づく（均質化する）と仮定

- 予測①: 社会的交流はメンバーの思いやり（向社会性）ギャップを縮める（♡）
- 予測②: 社会的交流はチームパフォーマンスを高める（♫）
- 予測③: 損失回避傾向の強いチームほど、♡, ♫の効果が大きい
- 予測④: シナジーが強いチームほど、♡, ♫の効果が大きい

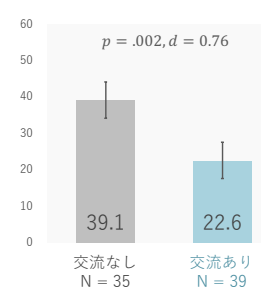


4 Lab Experiment: ラボ実験

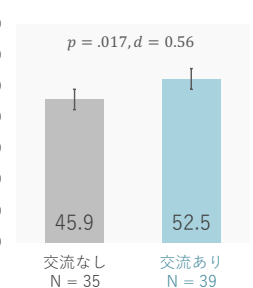


5 Results: 実験結果

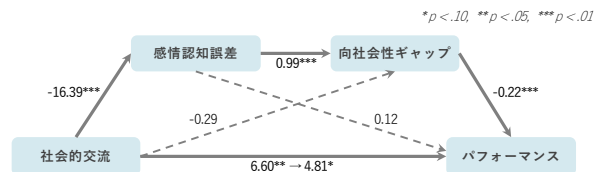
社会的交流と向社会性ギャップ



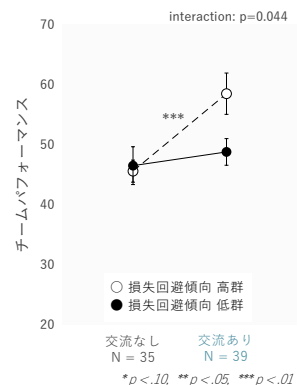
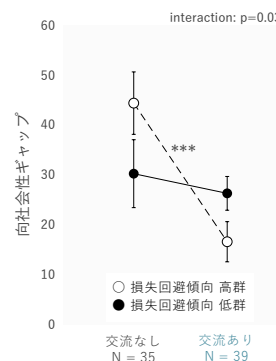
社会的交流とパフォーマンス



- 社会的交流は、メンバー間の「思いやり」ギャップを縮小（予測①の実証）
- 社会的交流は、チームパフォーマンスを高める（予測②の実証）



- 社会的交流により、仲間に自分に抱く「思いやり」感情の正しい認知を促しそれがメンバー間の「思いやり」ギャップを縮小し、パフォーマンスが向上



- 社会的交流は、損失回避傾向のチームの「思いやり」ギャップを小さくし、チームパフォーマンスを高める（予測③の実証）

▽ その他の興味深い結果

- 社会的交流は、特に同性ペアの「思いやり」ギャップを小さくし、チームパフォーマンスを向上させる（予測④の実証）
- 社会的交流により、タスクでのコミュニケーションの質と量が有意に向上